

# まちを動かす ひと夢こころ

ボランティアで、広報おたけの点訳をしている、点字サークルあけぼの代表の小清水百合子さんと、音訳をしている、あけぼの音訳グループ代表の市原慶子さんにお話しを伺いました。

## 正確に点訳することを心掛けています



点字サークルあけぼの  
代表 小清水百合子さん (64歳 東栄1)

**点** 字サークル「あけぼの」は14人で活動しており、私が点字サークルで活動を始めて25年になります。ひと月分の広報紙を活動できるメンバーで分担し、打ち終わったら2人組になって確認し合います。広報紙36ページを点訳すると、約180ページになり、4〜5日かかります。

点字にはたくさんの方の決まり事があり、例えば、言葉は聞こえたように訳しますので、「東京」は「とうきょう」で

はなく、「とうきょう」と打ちます。さまざまな決まり事に気を配りながら、正確な点訳をいつも心掛けています。たくさんの方の数をこなして、身につけていくしかないですね。

現在、4人の方が広報紙の点訳版を利用しています。少しでも、目の不自由な方になれるよう、できる限り続けていきたいですし、新しいメンバーの育成にも積極的に取り組んでいきたいと思っています。

## 心を込めて読むことを心掛けています



あけぼの音訳グループ  
代表 市原慶子さん (73歳 黒川2)

**あ** けぼの音訳グループは9人で活動しており、私が音訳グループで活動を始めて33年になります。月末に次号の広報紙が届いたら、まずは目次を8〜9の見出しに分け、下読みをして録音に備えます。当番制で担当し、完成するのに2〜3日かかります。

現在、7人の方が広報紙の音訳版を利用しています。できるだけ早くお届けしようと、毎月時間との戦いで、記事が多いときは大変

です。毎月心を込めて読むことを心掛けていますが、なかなか満足のいく仕上がりになりません。「次こそは」と思う心が、活動を続けていける力になっています。悩んだり、苦労した分、うまくいったときの達成感は大きいです。

世間様に恩返しがしたいと思って始めた活動でしたが、自分自身がたくさんの方のことを学ばせていただいています。